

## 4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

### 4. 1. 刊行物

#### 気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

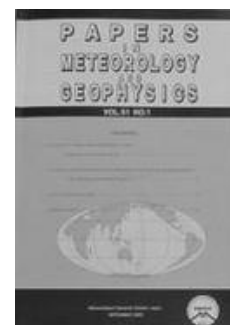
気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム “J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

令和 5 年度は、次の論文を掲載した。

#### 第 71 巻

- ・ 小林昭夫 : GNSS データによる非定常地殻変動検知手法の改良ー共通ノイズ除去手法の改善・日向灘への対象領域の拡張・余効変動を除去した非定常変位監視手法の提案ー
- ・ 安藤 忍, 小林昭夫 : 干渉 SAR 時系列解析手法を用いた御前崎周辺の定常的な地殻変動



#### 気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。気象研究所ホームページで閲覧することができる。

URL : [https://www.mri-jma.go.jp/Publish/Technical/index\\_jp.html](https://www.mri-jma.go.jp/Publish/Technical/index_jp.html)

なお、第 72 号をもって冊子での発行は終了し、オンライン発行のみとなった。

令和 5 年度の発行はなし。



## 4. 2. 発表会・主催会議等

### 気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。

令和5年度は、令和5年12月2日（土）にオンライン開催し、以下の研究成果について発表した。

#### 【報告題目】

- ①津波の到達から後続波・減衰に至る全過程を予測する

報告者：林 豊（地震津波研究部 第四研究室長）

- ②雪粒子の特徴から探る降水形成メカニズム

報告者：橋本明弘（気象予報研究部 第一研究室長）

- ③高解像度地域気候モデルを用いた局地的な気候変動予測

報告者：野坂真也（応用気象研究部 第一研究室研究官）

- ④大気中の微粒子（エアロゾル）が地球の気候を変える ―気候研究の最前線―

報告者：大島 長（全球大気海洋研究部 第一研究室主任研究官）

### 第5回環境研究機関連絡会研究交流セミナー

気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する研究交流セミナー（平成15年度～平成30年度までは環境研究シンポジウムを実施）で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和6年1月24日（水）にWebセミナーが開催され、気象研究所は以下の発表を行った。

#### 【口頭発表】

口頭発表テーマ：「カーボンニュートラルに向けた環境研究」の関連研究

発表名：温室効果ガス観測のこれから～脱炭素社会に向けて～

発表者：坪井一寛（気候・環境研究部 第三研究室長）

#### 【総合討論】

総合討論テーマ：「カーボンニュートラルの達成に向けて、必要な研究と課題とは」

話題提供：「地球規模でのカーボンニュートラルをどのように確認すべきか」

発表者：坪井一寛（気候・環境研究部 第三研究室長）